

天体観測ドーム 今月のOPEN

日没から午後9時30分まで（晴天時のみ）

2/

1日(土)・2日(日)・8日(土)・9日(日)・11日(火)
・15日(土)・16日(日)・22日(土)～24日(月)

星空通信



2025年2月号

- | | |
|----------|---------------------|
| 1日 土星食 | 15日 金星が最大光度 (-4.9等) |
| 4日 木星が留 | 21日 下弦 |
| 5日 上弦 | 24日 火星が留 |
| 9日 水星が外合 | 28日 新月/金星が留 |
| 10日 火星食 | |

用語解説

がいごう
外合…地球-太陽-内惑星と並んだ時

りゅう
留…惑星が順行⇔逆行へ変わる時、地球から見た天体上で、太陽からもっとも離れる瞬間。

土星の環の消失

土星は太陽系の惑星の中でも特に際立った存在感で、ユニークな形をしている。とても見ごたえのある環は、一枚の板ではなく、土星の周囲を高速で公転する氷の粒が集まったもので、太陽光を反射することにより明るく輝いている。

今年、この環がほとんど見えなくなる「環の消失」という現象が発生する。環が見えなくなる条件は大きく3つに分かれる。土星から見て地球が赤道方向にある場合で、環はとても薄いため、ほとんど見えなくなる。次に土星から見て太陽が赤道方向にある場合でも、薄い環に太陽光が当たらないためほとんど見えなくなる。このような場合はおよそ15年に1回チャンスがある。今年の場合、3/24に地球が土星の北側から南側へ移り続いて5/7に太陽も南側に移る。5/7頃は夜明け前の東の低い空に金星を目印として探すと良いと言われている。めったに見られないため皆さんもぜひこの機会に観察してみてもどうか。

★今月の惑星情報★

水星

9日に外合、以後は日の入り後の西の低空に位置。月末に向けて徐々に光度を上げていくが、見かけの位置が太陽に近く、観察は難しい。

金星

日の入り後の南西から西の空に見え、月初めの明るさは-4.8等あり、最大光度の15日前後には-4.9等に達し、月末には-4.8等となる。

火星

上旬から中旬にかけてふたご座を西に移動、24日に留となり、以降は東向きの動きに転じる。留の頃には、星空の中での火星の動きが止まったように見える。宵の東から南東の空に見え、明るさは-1.1～-0.3等。月末には日の入りから3時間ほど経った頃に南中する。

木星

おうし座を西に移動、4日に留となり、以降は東向きの動きに転じる。留の頃には、星空の中での木星の動きが止まったように見える。宵の南東から南西の空に見え、明るさは-2.5～-2.3等。

土星

みずがめ座を東に移動。日の入り後の西の低空に位置するが、中旬以降は高度もひくくなり、観察は難しい。